にも、やはり体を壊したら何もならないと私は思います。市民との交流も本当に考えていただいて、大変、住んでいる私たちにとってもいいことだと思いますが、その点健康にもやっぱり留意されないと、せっかく新しく入ってこられた方も、やはりいろんなことで悩むことが、どんな職場でも多いと思いますので、そういう、例えば心のケアなんかも必要だと思いますけども、そういう点ではどのような対応をしているのか、市長にお伺いいたしたいと思います。

○平　進介議長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　この件については、ちょっと詳細については、総務課長のほうからとか、総務参事がいいか。総務課長ですよね。総務課長のほうから、メンタルヘルスとかいろんなことをやっていますので、お答えをさせていただきます。大丈夫、急だけど。

○平　進介議長　近藤智規総務課長。

○近藤智規総務課長　ただいまの鈴木富美子議員のご質問にお答えいたします。

　メンタル的なところで、例えばカウンセリングということではないですけど、そういった話を聞いたりする機会でございますが、その働き方改革によりまして、さまざまその法改正に合わせた措置ということで、先ほど副市長のほうからも、ある程度この長時間の時間外のあったものにつきましては、産業医によります面談などの制度も出てきておりますので、そのようなものをフルに活用しながら、職員のそのメンタルのチェックといいますか、そのような管理にも十分配慮していきたいと考えているところでございます。

（「ストレスチェック」と呼ぶ者あり）

○近藤智規総務課長　そうです、失礼しました。それと、ストレスチェックでございますね。失礼しました。

　毎年ですけども、健康診断時に、これももう義務づけられておりまして、あわせてその現在の自分のその状況どうかっていう書式がございまして、それを自分で一人一人書きながらそれを提出して、後からそれについて結果がそれぞれ個人個人に参りますので、それによって、場合によっては産業医の面談を受けるとか、そのようなふうな仕組みができておるところでございます。

（「名称。ストレスチェック」と呼ぶ者あり）

○近藤智規総務課長　ストレスチェックという名称でやっております。

○平　進介議長　10番、鈴木富美子議員。

○１０番　鈴木富美子議員　ありがとうございました。ぜひそれを続けていただいて、より働きやすい職場にしていただきたいと思います。

　旧長井小学校第一校舎についてお伺いいたしますが、時間がないようなので、希望だけちょっと言わせていただきます。

　これから外構工事に入ると先ほど参事がおっしゃられましたので、ぜひ、特に駐車場なんかは本当は道路を挟んでほしくないなと私的には思っておりますので、なかなか難しいかもしれませんが、いろんな考慮をしていただいて、多くの方に利用していただけるような外構にしていただきたいと思います。

　これからまだまだ中も変わっていくと思いますので、ぜひ皆さんが使いやすいような施設にしていければと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

　以上で質問を終わります。ありがとうございました。

勝見英一朗議員の質問

○平　進介議長　次に、順位４番、議席番号２番、勝見英一朗議員。

（２番勝見英一朗議員登壇）

○２番　勝見英一朗議員　これから一般質問をさせていただきます、政新長井の勝見です。

議員を目指すことを決めてから、大変大きな責任を感じております。そもそもの思いは、学校に行けない子供のためにフリースクールをつくりたいと思ったことでした。ただ、それを検討しますと、意外と難しいものがありまして、であれば、議員であればセーフティーネットからこぼれた人の声を聞くこともできるのではないかと、そういう思いで議員を目指すことにいたしました。当選させていただいて、今、本当にそういう人たちの声を聞くことができるのか、長井市にとって役に立つ仕事ができるのか、そして地域の人の期待に応えられるのか、不安もありますが、自分でできることを地道にやり通しながら、長井市のために尽くしてまいりたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

では、質問に移ります。初めての質問ですので、的を外した質問をするかもしれませんし、また、慣例に合わない言い方をするかもしれませんが、その際は後学のためにもご遠慮なくご指摘、ご教授いただきたいと思います。また、過去の質問と重なる部分もあるかもしれませんが、ご面倒でも再度ご説明いただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

きょうは、大きく３点について質問いたします。１点目は、長井の子供たちの学習状況についてです。特に学習習慣などについてお尋ねしたいと思います。２点目は、長井の産業振興の観点からのキャリア教育に関する質問です。そして、３点目は、同じく長井の産業振興の観点から職業教育について質問させていただきます。

それでは、最初の質問ですが、毎年実施されております全国学力・学習状況調査及び山形県学力等調査について、特に質問紙調査で浮かび上がってくる子供の実態について、あるいは学校の実態について、教えていただきたいと思います。

本市では、市長の施政方針で示されているとおり、日本一幸せに子育てできるまちへ向けた取り組みを進めることとし、重点戦略１として、世界へ挑戦できる子どもが育つ！長井の子育て魅力ＵＰ戦略を掲げ、具体的には、読み聞かせや音読、暗唱、百ます計算によって、読解力の育成、基礎的・基本的な能力の育成を図っております。また、全小中学校に外国語指導助手を配置し、インターネットを活用してマンツーマンの英会話学習を取り入れるなど、英語力の向上にも取り組んでおります。そのほか、電子黒板などのＩＣＴ機器を先進的に配備するなど、長井の教育を特徴づけるさまざまな取り組みがなされております。そして、そのような長井ならではの教育をもって、本市への信頼を高め、子育て世代の定着につなげようとされております。このような積極的な取り組みは、長井の将来を考えたとき、大変すばらしい視点だと思っております。

さて、その上で、実際それらの施策がどのような成果を得ているのかに関心を持つものです。本市の子供たちがどのように変容しているのか、何が得意で何が課題なのか、どんな学習上の特徴があるのか、それらを具体的な指標で知りたいと思うものです。教育振興計画等には結論的に記述されてはおりますが、少々具体性に欠けているように思います。私が目にしていない別な資料等にはあるのかもしれませんが、本市の子供たちの実態はどうなのか、ぜひ教えていただければと思います。もちろんプラス面だけでなく、マイナス面もあるだろうと思いますが、それらを含めて明らかにすることによって、長井の教育に対する市民の信頼、特に子育て世代の信頼が高まるのだろうと思っております。

そうした評価をする上で、毎年実施されます全国学力・学習状況調査と山形県が独自に実施しております教科横断型の山形県学力等調査は、

本市が重視する基礎・基本の徹底、探求的な学習を通した思考力、判断力、表現力等の育成、主体的に学ぶ態度の育成などの成果を見る上で大変重要な指標になるものと思います。特に全国学力・学習状況調査では、学力調査と同時に、児童生徒質問紙、学校質問紙調査が行われており、全国と県を比較したり、あるいは県と本市を比較したり、児童生徒と先生の回答状況を比較したりすることによって、平均点では気づかない特徴が見えてくると思います。もちろん国や県が一貫して配慮を求めている、平均点等を比較して序列化するようなことを求めるものではなく、本市の子供たちの実態を的確に把握し、その成果と課題を全ての教員が共通理解し、授業改善に取り組むこと、そしてそれらを保護者や市民に適切に知らせていくことは重要であると考えるからです。また、そうした社会に開かれた姿勢が、保護者の信頼を厚くし、教育と子育ての長井を確かなものにすると考えるからです。

以上の考えのもと、次の３つを質問いたします。教育長の回答をお願いいたします。

１つは、全国学力・学習状況調査及び山形県学力等調査の結果について、本市の児童生徒はどのような状況にあるのか。学力については、特徴的な点で結構ですので、特に学校質問紙、児童生徒質問紙の回答をどのように分析されたのかをお聞かせいただきたいと思います。

２つ目に、その状況及び分析結果を授業改善に生かすために、どのような取り組みが行われたかをお聞きいたします。

そして、３つ目に、その状況及び分析結果、もちろん学力の平均点ではなく質問紙調査の回答状況と分析ですが、それを保護者、市民にどのように公表されてきたかをお聞きしたいと思います。もし公表等について、基準とかお考えとかがおありであれば、あわせてお聞かせいただきたいと思います。

次に、２点目の質問をさせていただきます。これは、本市の産業振興の視点でのキャリア教育のあり方についてです。

現在、本市では、人口減少にブレーキをかけることが最大の課題となっております。そのために必要なことは、まちの魅力を高めること、その一つが、教育と子育てであろうと思います。そのことに関連して、最初の１点目の質問をいたしました。

そして、人口減少にブレーキをかけるために必要なことのもう一つは、まちの活力、特に産業の活力を生むことであると思っております。しかしながら、現状は、建設業や農業を初め、後継者不足、働き手不足が深刻となっております。一方で、高校生の進路を見ると、進学にしろ、就職にしろ、市外、あるいは県外に出るものが多いという現状です。こうした現状を打開するために、市としても卒業生に長井のよさを知らせるように努めておられますし、ものづくり人材育成推進協議会を設置して地域企業との連携を図っておられます。市内企業でも、人材確保に努力されておりますし、長井高校同窓会でも、卒業生に長井の情報を届ける仕組みを今年度から取り入れました。そのような各方面での努力が実を結ぶことを願うものですが、しかし、若者の流出を抑える、あるいは呼び戻すことは、容易ではないとも感じております。

そこで考えるのですが、そもそも高校卒業時点での出口対策では遅いのではないか、そこで長井のよさを伝えても、心の中にまではしみ通っていかないのではないか、特に20年来使われてきたキャリア教育という言葉に、そもそもの目的と違った実態になってはいないかという疑問を持つものです。

キャリア教育は、社会の急激な変化を前にして、若者が決定を先送りするモラトリアム的な傾向が強くなったり、精神的、社会的自立がおくれたりするなどの社会問題に対するために、

自立した社会人としての基盤づくりとして提唱されたものと捉えております。人は社会とのかかわりの中でさまざまな役割を果たしながら自分らしい生き方をつくり上げていくわけで、その自分らしさが個性であり、社会の中で役割を果たすことによって自己肯定感、自尊感情が育まれていくのだろうと考えます。

しかしながら、現在のキャリア教育を仄聞しますと、自己理解とは、自分の得意なこと、不得意なこと、あるいは自分の夢とか希望とかを把握することに落ちついてしまっているように思いますし、職業を調べて自分の希望とマッチングさせることが進路選択の方法として行われているように感じます。もちろんそれが全てではないと思いますが、少なくともそういう傾向があるのではないかと感じております。

自分の希望を出発点として、自分がなりたい職業につくことを目標にしてしまえば、働くとは、社会の一員としての役割を果たすことなのだという視点がおろそかになってしまいます。職業とは、社会を成り立たせる不可欠な要素であるということ、人は職業を通して社会を成り立たせているということ、したがってそこには職業による貴賤はないことなどをしっかりと教えていくべきであろうと思います。

もっとも、ここまでは一般論的なことで、私が申し上げた問題点は文科省も既に指摘するところですから、教育委員会としても適切に対応されているとは思いますが、さらにつけ加えて言いたいことは、一般論としてのキャリア教育を行うだけでなく、長井の課題に沿った長井らしいキャリア教育を構築していただきたいということです。

本市の重要な課題は、若者の定着です。とすれば、社会という言葉を一般化せず、長井という地域に目を向けて、その長井を形づくっているさまざまな職業、長井の産業全般についての理解を深めさせ、その職業について働くことを通して長井という社会を支えていくのだという使命感とかやりがいとかを、小学生の段階から、もちろん発達段階に応じてしっかりと学ばせることが必要だろうと思います。そうした地域の産業との結びつきを通した長井らしいキャリア教育を構築できないだろうかと思うものです。

そのような思いから、具体的に２つ質問いたします。

一つは、今申し上げたように、最初に自己理解、次に職業理解、卒業学年時に自己と職業のマッチングのようなものがキャリア教育のパターンになっていたと感じておりますが、市内小中学校においてキャリア教育がどのように行われているのか、教育長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

もう一つ、職業を通して社会における自己の役割を果たすという視点をもっと大切にして、働くことを通して地域に貢献するという意識、具体的には、地域にはどんな産業があるのか、その産業の地域における役割は何か、長井で働くことにはどんな意義があるのか、自分はどのような形で地域の産業に貢献できるのかなど、地域の産業とそこで働くことの意義、職場のよさを小学生の段階からしっかり身につけさせる長井らしいキャリア教育が必要だと考えますが、今後のキャリア教育のあり方についてどのような視点で取り組まれるか、これは市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

最後に、３点目の質問をさせていただきます。２点目の質問と共通する視点からの質問ですが、本市の産業振興の視点での職業教育のあり方についてです。この中でお聞きしたいことは２つで、一つは、工業高校の学科に関すること、もう一つは、職業訓練に関することです。

市内の製造業、建設業などの方とお話をしておりますと、地元工業高校の学科改編の影響を嘆く声が多く聞かれます。長井工業高校では、平成25年度から３学科になったことで、特に建

設系の企業で高校新卒者の獲得がままならず、市外工業高校、あるいは産業技術短大に募集するものの、売り手市場の現在、大変厳しい状況にあると聞きます。こうした状況を打開するためには、待遇改善や魅力アップなどの企業努力が大切になりますが、もう一つ、西置賜地区高校再編を見越して、工業高校の学科、類系について、当市としての考えを明確にしていくことも大切であると考えます。もともと10年前に学科改編が検討された折、その基本方針は、地域産業を牽引する人材を育成するとうたっておりました。そして、地域関係者からの意見聴取を踏まえて新学科を編成したとされております。しかしながら、時ならず今申し上げたような課題が浮かび上がっております。企業からの切実な声と、前回編成時に地域の声が十分に反映されたのかという反省を踏まえ、地域の産業振興のために、どのような技術、能力を持った人材が必要なのか、そしてどう育成していくのかを明確にし、それに応える学科の編成を設置者に要望していくことを今から進めるべきと考えます。

前回、西置賜の高校再編を検討し始めたのは平成21年２月で、それから10年を経過しました。当然、当時と社会情勢は大きく変わっております。また、高校のあり方についても、１学科40名単位ではなく、20名単位の系列を取り入れるなど、柔軟になっております。西置賜の高校再編はまだ先ではありますが、目の前に来てからでは遅いというのが前回の反省点と思いますので、現在の企業が直面する新たな課題を踏まえた工業高校の学科、類系のあり方について検討を進め、設置者に要望していく活動を始めるべきと思いますが、いかがでしょうか。そのことについて、市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

もう一点、特に土木系の職種で人材確保が困難になっていることについてです。この問題は、本市のインフラを支えるために、また防災や災害復旧のために、単に企業の問題と傍観できないことであると考えます。まして地元の工業高校で環境システム科がなくなったことにより、せっかく地元の人材が就職したとしても、基礎知識のないまま職場に入ることになり、職場の安全や働く意欲の面で大きな課題があると感じております。

では、どうすればよいか。その一つは、今申し上げた工業高校の学科に関する検討の推進、そしてもう一つが、短期の職業訓練の導入です。市内には２つの職業訓練施設がありますので、そのいずれかにおいて短期の土木系職業訓練ができるよう後押ししてはどうかと考えるものです。短期課程の普通職業訓練では、施工管理技士等の資格取得に直結することにはならないかもしれませんが、企業内研修の促進や社員の専門資格取得の支援、ひいては市内土木系企業の魅力を高め、人材確保に役立つであろうと考えますが、いかがでしょうか。職業訓練を行うためには、場所の確保や講師の確保、継続的な受講者の確保、県との連携、関係業種の協会等との連携などが必要になってまいります。そうした連携の橋渡しを務めながら、普通職業訓練短期課程の実施に向けて、市として後押ししてはどうかと考えますが、そのことについて、産業参事のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

以上、自分の考えも入れながら、大きく３項目にわたり７つの質問をさせていただきました。質問に当たり、いろいろ調べたり聞いたりもいたしましたが、まだまだ深め切れていないと自戒しております。そうではありますが、私の感覚は市民の感覚とそう離れてはいないはずです。もしわかっていないなと思われたとしても、市民にはその程度にしか伝えられていないのだというふうに捉えていただいて、ご回答をいただきたいと思います。どうかよろしくお願いいた

します。

以上で壇上からの質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○平　進介議長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　勝見英一朗議員からは、大変示唆に富んだご提言をいただきました。大きく３つの項目につきまして、提言、ご質問等々がございますが、私からは、２点目の長井市の産業振興の視点でのキャリア教育のあり方について、また３点目の長井市の産業振興の視点での職業教育のあり方についてということでございます。

まず、勝見議員のほうからは、人口減少を食いとめるための、長井市は教育とか子育てに力を入れるべきだということでございますが、全く私も同感でありまして、したがいまして、平成27年に地方創生の総合戦略を立てましたけれども、当時国から求められていたのは、働く場をつくることということでございました。それを具体的に頑張って、今も懸命に取り組んでおられるのが隣の飯豊町さんで、地方創生の実は推進交付金を含めて、先ほどの長井小学校旧第一校舎の拠点整備交付金等々も、県内35の市町村で実際に利用できているのは５つか６つぐらいの自治体だけなんですね。そういう意味では飯豊町さん頑張っておられると思うんですが、私は、今働くところっていうのは、勝見議員もご承知のとおり、長井工業高校と長井高校が県立高校として２校あるわけですけども、長井高校の卒業生は、大分ほぼ100％が進学されて、県外の大学へ行くケースが多いんですけれども、地元に戻ってくる方々っていうのは、卒業後も１割から２割であろうと思っています。一方で、長井工業高校については、全くその逆で、７割、８割が地元に残ってくれると。これは県内も含めてでありますが、そういった意味では、それは産業振興、働くところだけなのかと。要は、つきたい仕事がないので、特に普通高校に行った若い人たちは戻ってこないんだなと。ですから、まずは人材をどう育てるか、そしてまた地域、特に長井はものづくりで製造業と農業を非常に頑張っているわけでありまして、それらの人材をきちっと育てていく、そういう産業を支える人たちをですね。そういったことが大切だろうということで、実は総合戦略組んだわけですね。

まずここが基本で、たまたまですけども、シティーマネジャーを私ども国に手を挙げまして求めました。そうしたところ、文部科学省から、本当にラッキーなんですけど、全国で１人だったと思います、我々と同時期は。その前、後、行った市町村もありますけれども、そんなことで、より一層まずは教育に力を入れようということで、後ほど教育長から詳しくあるかと思いますが、たかだかまだ三、四年しか取り組んでおりませんけども、例えばコミュニケーションとしての英語、英会話をこれから絶対必要だと。それは長井にいようと、長井から出ようと同じだろうと。また、自分の行きたい、あるいは自分の夢を実現するためのいわゆる偏差値ですね。偏差値の高い子供を育てることも重要だろうということで、陰山先生、これは京都に今いらっしゃいますけど、大阪府の教育委員長をなさった。あるいは東北大の川島先生、脳科学の先生ですね。そういった先生方から顧問としてお願いして、さまざまな取り組みもしました。時間がありませんので、教育長から多分あるかと思いますので、私からは申し上げませんけれども、そういった中で、議員からありました本市のキャリア教育については、職業を通して社会における自己の役割を果たすという視点をもっと大切にし、働くことを通して地域に貢献するという意識を小学生の段階からしっかり身につけさせることが大切と考えるが、今後のキャリア教育についてどのような視点で取り組まれるかお聞きしたいということで、さまざまな、何ていうか、示唆に富んだいろいろな考えなども述べ

ていただきながら、私、初めて聞くこともいっぱいあったので、何を答えたらいいかちょっとわからなかったんですけども、申し上げますと、基本的に長井は、郷土愛を育てようということで、これは平成の13年ごろからですけど、具体的には。長井の心。当時は竹田教育長さんが教育委員の皆さんと一緒にプログラムをつくっていただいて、それを今もやっております。これは着実に成果を上げております。

一方で、本当のキャリア教育をやり出したのは、ここ三、四年だと思っております。先ほどの地方創生の教育を柱に据えたということについての具体的な取り組みですね。勝見議員もご存じだと思うんですが、うち、小中学校含めて８校ですよね。各校に、例えばＡＬＴがいるっていうのは、もう私ども去年、おととしからいるわけですけども、当時は長井だけなんですよね。それぐらい山形県はおくれていますよ、教育。このキャリア教育についても、勝見議員おっしゃるように、社会に必要とされる自分という自己肯定感ですよね。自己有用感とも言うそうですけども、これも大いにキャリア教育を行う上で大切なわけですけども、今、加えて有効求人倍率にもあらわれております、働き手の不足、地域のさまざまな担い手、後継者の不足について、長井の地元に残って活躍いただける人材の確保は急務なんですが、議員おっしゃったように、平成25年に環境システム科、長井工業高校、なくなりました。そのあたりからちょうど建設業から、非常に土木人材が必要となったわけですよ。当時私も市長をしておりましたから、もう最初から、私の考えですよ。県の教育委員会は決めてかかられました。これをなくすんだという前提でアリバイづくりされたんですね。ですから、最初私に来られたとき、実はかなり激怒しまして、県の次長がいらっしゃいましたが、手をたたいて、何ふざけたこと言ってんだと。何で決めてかかってくるんだと。だけども、当時やはり地元の土木建設業も声を上げてくれなかったですよね。その後、土木人材が必要になって、今、必要だ、必要だって言っているわけですよ。ですから、10年前から見据えた、先々の県の教育委員会のあり方っていうのは、私は非常に弱いと思っています。

５月に知事と我々市町村長の市町村会議というのがありまして、知事から今年度の県政運営のあり方について話がありました。私のほうから、実は県立長井工業高校のような実業高校をもっと県では生かすべきじゃないかと。山形県はものづくりの県でしょうと。農業と製造業ですと。だけども、実業高校に狙い定めて減らしたじゃないですかと。これではどんどんどんどん山形県疲弊しますよと。県で推奨しているのは、いわゆる普通高校、偏差値の高い高校に行けば行くほどいいと。そこはもう出口になっているわけです。前の文科省から来ていただいた泡渕戦略監の話ししますと、壊れた蛇口ですよ。そこから有能な人材がどんどん東京に行って、戻ってこないんですよ。それを県は推奨していたじゃないんですかと。そこまでは具体的に言いませんけど。

ですから、今必要な有効求人倍率が、山形県は随分落ちつきましたけれども、長井市はまだ1.62ぐらいなんですよ、４月の末で。山形県で1.49ぐらいで。やっぱり高いほうです。しかも一番は、1.4倍の正社員の有効求人倍率なんです。これは県内断トツ、全国をかなり上回っているんですよね。その第一が製造業と建設業です。あとは介護人材なんですよね。ですから、そういったところの人材育成をどうするかと。それを県の教育委員会はもう一回考えてほしいというふうにお願いしまして、知事からも温かい言葉をいただきましたんで、これから県の教育長ともいろいろお願いしてまいりたいと思っておりますが、済みません、時間がありませんのでまとめますが、ぜひキャリア教育について

は、教育長からもありますし、産業参事からもあると思いますので、私のほうからは、前の鈴木富美子議員からのご質問でもありましたけれども、旧長井小学校の第一校舎、これは実は学びと交流の場にしようということで、でもあそこを使うには７億円必要だったんですよ。でも、それは文科省の補助事業には合致しないと諦めていたんですよね。

まずは、じゃ、その仕組みづくりをしようということで、地方創生の交付金を受けまして、ソフト事業から進めていたやさきに、地方創生の拠点整備交付金というのが出まして、いきなり採択してもらったんですよ。全国で５番目に額が大きかったんですけど。あそこで私がやりたかったのは、まず小学生には社会の仕組みを教えたいと。社会ってどうなっているのか。どんな職業があって、何で税金を納めなきゃいけないのか。電気料とか水道料とかどうなっているんだと。銀行って何なんだということを教える。まずは小学校でそれを教えたいなと。あと、中学生では、教えたい基礎は、社会人になったら自分は何をしなきゃいけないのか。働くっていうことですよね。働くっていうことを理解する。あと、やがて家庭を持った場合、どういうふうな自分の生活設計のプランを立てるかと。そういうことを学ぶ。そういう場にしたいと。加えて、勝見議員からありましたように、長井とかこの地域の産業、会社、そういったことを教えたいなと。あとは愛郷心はずっと長井の心でやっているわけですから、これはまだ緒についたばかりですから、多分本当に成果が出るのはやっと５年後ぐらいだと思います。必ず５年後には、ぜひ長井で子育てしたいというふうにほかのまちから移ってくるぐらいのまちになるはずです。そのぐらいの自負はあります。

したがいまして、まず最初の質問につきましては、まず大ざっぱですが、そんなことでお答えにさせていただきたいと思います。

あと、２点目の、企業課題を踏まえた工業高校の学科、類系のあり方について長井市の考えをということですが、先ほども県の教育委員会、知事に対してもいろいろお願いしているということですが、長井工業高校は、私ども長井市にとっては非常に大切な生命線だと。子供たちも学校そのものも、垂れ幕にあるように、長井を潤す源流となれと。そういうふうにみずからいっているわけですね。ですから、それにやっぱり我々も応えなきゃいけないと。

ただ、やっぱり長井工業高校も４割近く進学しています。大学行ったり、短大、専門学校。でも、戻ってくる率は驚くほど高いんですね。やはり長井でもともと働きたいと。あるいは、いずれ自分でも起業創業したいという気概を持っている子供たちが多いんですよ。これはびっくりしました。去年、おととしからやっております長井工業高校の課題研究発表会というのをＴＡＳでお願いしたいんですね。ものづくり人材育成推進協議会というのをつくっていただいて、そこで、子供たち、代表してするわけですけど、全員がやっぱりテーマを設けて発表しているんですけども、代表して発表いただくんですが、驚くばかりです。一般市民の方も、あるいは企業も、すごいなと、長井工業高校は。こんなことまでやっているのかと。それぐらい意識が高いんですよね。

ですから、私たちは長井工業高校に対して専攻科を、いわゆる大学とか短大、なかなか行けないと。ですから、もう少し勉強したいという子供たちのために長井工業高校に専攻科を設けてほしいと。米沢工業高校は失敗しているようですが、そうじゃないやり方あるはずだということで、これは３年前から、ことしで４年目で要望しております。ただ、最初の２年は全く無視でした。去年あたりからようやく、その考え方もそのとおりだというふうにわかっていただけました。今、求めているのは、地方創生のほ

うの、文科省もですね、いわゆる高校と市町村でやっている義務教育、乖離があるんですよ。これではだめだと。高校は我々市町村と全くつながりがないと。その一番いい例が、災害があったときとか、あとひどい話ですと、熊が入ったとき、全く我々市町村を県は相手にしないですよ、県立高校は。管轄じゃないから。そんなことないでしょうと。ですから、我々手塩に育てた子供たちが、義務教育のときは本当子供たちって地元の愛郷心あるわけです。ところが、高校に行った途端、３年間全く接触がないと。ただ、長井市は少年議会で、長井高校、長井工業からも来ていただいていますんで、随分変わりましたけども、そこのところでやはり我々要望しております。

そして、また多分再編もあるかと思うんですが、そこに対してどういうふうに考えていくかということなんですが、特に勝見議員もご承知のとおり、総務省は今特に何に力を入れているかというと、ソサエティー5.0、５Ｇ、そして我々市町村もローカル５Ｇということで、手を挙げれば支援しますよといっているんですね。簡単に言えば、５Ｇっていう移動通信システム、ですから携帯電話ですよ。今、５社あるんですけども、総務省で言っているのは、２年以内にこの５社に対して５Ｇを運用義務化ということをもう言っているんですね。今のスマホを使っている人はわかると思うんですが、今のスマホの100倍です。容量もスピードも。物すごい速い。これによって、ＡＩ、それからＩｏＴで、例えば農業だったら、それこそ自動トラクターで耕うんしたりとかね。あるいはドローンを使って空中散布とか、集中的にスポット的にいろんなそのことをやるとか、そういったことが可能になる技術がこれからもう間もなくなわけですね。５年以内には、総務省で進めていますが、10キロメッシュで基地局をつくると。これを50％、全国の、それをつくるといっています。そのときに我々手を挙げて、残念ながら本採択はもらえなかったんですが、長井工業高校プロフェッショナル型として、それを使う、使いこなせるような、いわゆる研究者じゃなくて実際にそれを活用する人材を育てる高校にぜひなりたいということで手を挙げました。推進校には選ばれなかったんですが、どうぞ仲間に入ってくださいということで言われましたけども、それを私どもはそういう学科をつくってほしいと。ただ、多分人材がいないんだろうなというふうに思いますが、そういったことをしながら、５Ｇ、ソサエティー5.0になりますと、それこそ都会と地方の格差ってほとんどなくなると言われています。東京にいようと、我々ちょっと不便な山のところにいても、もう全然、どこにいても同じ世界を相手に仕事ができると。なおかつ、給与格差とか、だんだんそういったものは縮小してくると言われていますんで、そういった学科などを学べる、そんな長井工業高校を含めた産業振興の一つの柱に据えて、県の教育委員会にもお願いしていかなきゃいけないわけですが、まずは国と話しして、あと県にもお願いしてまいりたいと、そういうふうに思っているところです。

○平　進介議長　平田　裕教育長。

○平田　裕教育長　勝見議員からは、私のほうに、全国学力・学習状況調査ですね。それから山形県学力等調査、その結果についてのご質問が３点、そしてキャリア教育につきまして１点ご質問いただきました。余り時間がありませんので、今回は全国学調の結果のほうを中心にお話しさせていただきたいというふうに思います。

勝見議員からありましたとおり、毎年４月に、平成19年度からになりますけれども、全国的な学力・学習状況調査ということが行われてございます。震災で中止になったときもありますけれども、基本的には毎年度行われている調査でございます。

この調査には、大きく２つございまして、一つは、国語や算数、数学、それから理科、英語などの学力の状況の調査、もう一つが、議員からご指摘ありました、生活習慣や家庭での様子などを尋ねるいわゆる質問紙調査、この大きく２つ調査がございます。今回は特にその質問紙の調査の中身についてどのような状況であるかというご質問でございますけども、ざっくりではございますが、学力の状況についてもちょっと簡単に説明させていただきたいというふうに思います。本当にざっくり申し上げます。

まず、今年度の４月の調査については、まだ結果が届いておりませんので、昨年度の調査が直近の調査ということになります。昨年度は、国語、算数・数学、理科、この３教科について行われました。小学校は全国平均、それから県平均をともに上回っておりました。具体的な数字はただいま申し上げませんけど。しかしながら、中学生については、若干、県、それから国のほうに届かなかったという結果になりまして、大きな課題というふうに捉えているところでございます。

この結果を受けまして、学校のほうでは、結果の詳細な分析に基づきまして、授業改善、それから個々の結果については、各児童生徒、そして各家庭のほうにお知らせをしているということでございますが、それを受けた取り組みについて次に申し上げたいというふうに思います。

市内の小学校では、先ほど市長からもありましたけれども、学びの基礎づくりモデル校ということで、豊田小学校と平野小学校さんで頑張っていただきました。今年度はその取り組みの成果を全ての小学校に広げるということで、現在、音読や百ます計算の取り組みを通じまして、学習に集中する力、それから物事を素早く考え処理する力、こういう学習の基盤となる力を伸ばす指導法について取り組んでいただいております。中学校においては、とりわけ基礎・基本の定着とともに、探求型の学習、これに頑張って取り組んでいただいております。

次に、質問紙のほうをお答え申し上げたいというふうに思います。質問紙による生活習慣等の調査の結果について、特徴的なところをピックアップして申し上げたいというふうに思います。

まず、朝食を毎日食べていますか、あるいは毎日同じ時間に寝て起きていますか、それから家で自分で計画を立てて勉強していますかという項目の結果を見ますと、長井市の子供たちは、全国や県と比較しまして規則正しい生活を送っているという結果が出ております。それからまた、学校の授業時間以外に平均１日当たり30分以上読書をしていますかという問いにつきましては、小学校では全国と同程度でありますが、中学校では非常に高くて、長井の心にもありますとおり、本が好きな子供がまず育っているという状況にあるというふうに認識しております。

ただ、課題ですが、一番大きな課題は、家庭学習の時間が短く、ゲームやインターネットのメディアに接する時間、いわゆるメディア接触時間が長いと。これはいろんなＰＴＡの会合等でも申し上げておるところでございますけれども、それが一番の本市の児童生徒の課題だというふうに捉えております。これに対しましては、市内の小中学校で、生活習慣を改善するヘルス・クオリティ・コントロール、ＨＱＣシートというふうに呼んでおりますが、これを活用しまして、１週間の生活リズムを親子で振り返って改善を促す取り組みを行ったり、ＰＴＡとの連携のもと、メディアとの正しいつき合い方、アウトメディアの取り組みを推進したりしているところでございます。

次に、児童生徒の学校における学びの様子に着目しますと、学級の友達との間で話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますかという項目に対

しましては、そう思うというふうに答えた児童生徒の割合が全国と比べて非常に高くなっております。これは、新学習指導要領の中でも重視されております協働としての学び、この姿でありまして、これまで取り組んできました長井小学校、長井南中を中心に推進してきた探求型学習、それが市内小中学校に広がってきている成果だというふうに考えているところでございます。

また、とっても大事なところなんですが、自分にはよいところがあると思いますか、先生はあなたのことを認めてくれていると思いますか、将来の夢や目標をしっかり持っていますかという項目に対して、当てはまると答えた児童生徒の割合も、全国と比べまして、中学校でそれぞれ10％以上、小学校で７％以上高くなっております。このことから、学びの土台となる自尊感情や自己肯定感も育まれているというふうに考えているところでございます。

ただ、問題としましては、児童生徒の質問紙と、それから先生方が回答する学校質問紙というのがあるんですが、その２つの間にややずれがあることが明らかになってございます。先生方はおおむね、子供たちは授業の中で自分で考え、自分から取り組むことができているというふうに認識している先生が多いんですが、子供たちのアンケートでは、約20％の子供たちは、余りその自分で考えたりすることをしていないと、自分から積極的に取り組んでいないというふうに回答しております。ここの乖離、これについては、先生方の研修会等で先生方に伝えまして、子供たちの課題やつまずきを的確に捉え、子供の思考に沿って授業を構成するなどの視点から授業改善に努めているところでございます。

ちょっと時間がありませんが、２つ目でございます。授業改善に生かすためにどのような取り組みをということでございますが、簡単に申し上げますと、まず各校で徹底的に分析を行っております。まず学力の状況、それから生活・学習状況、これについて徹底的に学校ごと分析を行いまして、もちろん市全体でも行いますけれども、それを受けたアクションプラン、これを学校ごとに作成しております。そのアクションプランの内容は、教科ごとにつまずきの多かった問題と、その何年生で習っているかと。それをしっかり洗い出しまして、これからどんな指導をしていってそれを改善していくかということで、すぐに取り組むべきことを具体化する。すぐに取り組むべきことは何か、そしてそれをいつ確認するのかというＰＤＣＡサイクル、いわゆるつまずきの克服状況の確認とアクションプランの効果、検証、これをＰＤＣＡサイクルを通して確立しながら行っているところでございます。

長井市全体としましては、先ほど申し上げました陰山英男先生の指導によります音読、百ます計算等を通しまして、基礎学力の向上と集中して学習に取り組む姿勢づくり、それに積極的に取り組んでまいりたいというふうに思います。今年度は市内全小学校に音読誌を配布しまして、全校音読なども取り組みを進めていただいているところでございます。

３点目でございます。保護者、市民にどのように公表されてきたかという点でございます。お答え申し上げます。

この調査結果につきましては、各学校ごと、学校だより等に掲載したり、それから保護者宛ての文書にするなどして公表しているところでございます。公表につきましては、数字だけを出しますと、数字がひとり歩きしてしまうということもございますので、ただ単に数値を示すことなく、全体の傾向、課題、そしてこれからどういうふうに改善していくのか、そのことを含めて工夫しながらお知らせをしているところでございます。

大きな２つ目のご質問にお答え申し上げます。

キャリア教育のあり方でございますけれども、市内の小中学校においてキャリア教育がどのように行われてきたかということでございます。

各小中学校におきましては、自立した社会人になるための基盤、これの育成を目指して教育活動に取り組んでいるわけですが、長井市では特に長井の心推進事業としまして、さまざまな面からこれらへの取り組みを進めているところでございます。

小学校では、担任と各学校に配置されております地域学校協働活動推進員が中心となりまして、総合的な学習の時間に、地域に伝わる伝統芸能を学んだり、地域の方から農作業を教わったり、地域で働く方々と交流したり、いわゆる地域をキーワードにしながらキャリア教育に取り組んでいるところでございます。今年度も、５月に行われました黒獅子まつりで小学校３校が伝統の黒獅子舞を披露しておりますが、市内全ての小学校で生活科や社会科等で地域の学習を推進しているところでございます。

それからまた、小学校高学年になりますと、いろいろな分野で働いている人の話をお聞きしながら、働くことの意義や意味、これについて考える時間を道徳や学級活動などの時間で設定しているところでございます。

それを受け、中学校におきましては、１年生におきましては、自分たちで長井市のことを調べ、見学に行き、小学校で培った視野をさらに広げ、市内10数カ所のものづくり企業、それから地元ならではの事業所等の訪問によりまして、地域の産業とそこで働く人々の思いや、やりがい等について直接学ぶ場面を設定しているところでございます。

さらに、２年生の修学旅行におきましては、長井の特産物やそれを生産する人々の工夫や努力について学習し、それらをまとめて情報を発信する学習を兼ねて、東京蒲田において販売体験活動なども行っているところでございます。

そして、３年生では、市内各企業での協力を得まして、３日間の職場体験を行いまして、将来の生活につながる職業観や生き方を学ぶ、学年段階、そして発達段階に即した一貫したキャリア教育を進めているところでございます。

このようなことが評価されまして、ことし１月に長井市立長井南中学校が第12回のキャリア教育優良学校として表彰を受けていることをつけ加えさせていただきます。

○平　進介議長　藁谷　尊産業参事。

○藁谷　尊産業参事　私のほうから、質問事項の３の２ということで、具体的には、技術者不足が深刻というような中で、特に土木系の教育課程の開設、検討を後押しできないかというようなご質問かと思います。

先ほど市長からもお話がありましたとおり、建設業、土木業界の人手不足というものは大変深刻な状況であるということで、企業の存続にかかわるというふうに認識しております。そのような中で、特に土木系の訓練につきましては、数年前から山形工科短大に実施できないかということで依頼しておるところでございます。職業訓練法人山形工科アカデミーでも、訓練生派遣企業との関係から土木科の開設を検討課題としているところでございますけども、開設するには、やはり、先ほど勝見議員もおっしゃっておりましたけれども、施設の整備、あとは教師の確保が必要となっております。このことから、山形県の重要事項要望にも上げております。長井市といたしましても、長井高等職業訓練校も含めて検討しなければならないと考えております。以上、お答えさせていただきました。

○平　進介議長　２番、勝見英一朗議員。

○２番　勝見英一朗議員　丁寧なお話をいただきましてありがとうございました。私が承知していないところも随分あるんだと思います。長井市としてしっかりとした取り組みがなされているということについて安堵いたしました。

特に今回質問いたしました内容は、全てこの長井市を支える子供たち、若い世代がどう育つかという、そういう観点で質問させていただきました。そのために長井の子供たちがどうなっているのか、そして長井のことを思うような若者がどう育つか、私、出身が長井高校で、進学が多いわけなんですが、そういうものもおります。そういうものも仮に長井市内に戻ってこなくても、長井のことを思いながら、長井のために自分のやれることをやろうと思うような人たちを育てることだろうと思います。

そして、この職業というものについては、自分のやりたいこと、あるいはこれからこういうことをしたい。それも大事なんですけれども、もう一つ、長井のために何かしたいというふうに思う子供たちを育てることが必要なんではないか。そういう思いから、キャリア教育等について質問させていただきました。そのことについては、長井市として本当に真剣に取り組まれているということですので、私もこれから地元に帰りながら、あるいは企業の方と話をしながら、行政と手をとり、長井のものづくりの人材に取り組んでまいりたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。以上で質問を終わります。

○平　進介議長　ここで暫時休憩をいたします。

再開は、午後３時20分といたします。

午後　２時５９分　休憩
午後　３時２０分　再開

○平　進介議長　休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

渡部正之議員の質問

○平　進介議長　順位５番、議席番号３番、渡部正之議員。

（３番渡部正之議員登壇）

○３番　渡部正之議員　皆様、お疲れさまでございます。本日最後の一般質問をさせていただきます。私は、このたびの市議会議員選挙におきまして初当選させていただきました渡部正之でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この場をおかりしまして、市民の皆様に、当選のお礼と感謝を申し上げます。初心を忘れず、長井市の発展のため、全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。また、先輩議員の皆様、市長を初め当局の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

住みたくなるまち、住んでいてよかったと感じるまちの実現のため、長井の魅力を発信し、交流人口増加へ向けたまちづくりや、子育て世代の代表として、子供が安心・安全に暮らせるまちづくり、長井に住んでいる全ての人が生きがいを感じるまちにしていくため、「若さと行動力で実りあるあすへ」をスローガンに行動してまいります。

それでは、通告に従いまして、初めての一般質問をさせていただきます。私からは、３項目で９点質問いたします。一括質問にて質問させていただきますので、ご答弁のほどよろしくお願いいたします。

初めに、大項目１、長井市における児童生徒の交通安全対策についてお伺いいたします。

ニュースや新聞等でも大きく取り上げられておりました滋賀県大津市の県道交差点で車同士が衝突し、散歩中に信号待ちをしていた保育園の園児16名が死傷した事故、そのほかにも無防